

学習習慣獲得のための講義毎の「確認事項」に 対する学生の評価

宇佐美晶信¹ 安部仁晴² 石田喜紀³
小林美智代⁴ 櫻井裕子⁵ 芹川雅光¹
長岡正博⁶ 古山 昭⁷

Students' Evaluation of "Lecture Essentials" Lists with Respect to the Habit-Formation in Post-Lecture Reviews

Akinobu USAMI¹, Kimiharu AMBE², Yoshinori ISHIDA³
Michiyo KOBAYASHI⁴, Yuuko SAKURAI⁵, Masamitsu SERIKAWA¹
Masahiro NAGAOKA⁶ and Akira FURUYAMA⁷

"Lecture essentials" lists were designed to encourage students to make a review after each lecture and were distributed electronically to the second year students at Ohu University School of Dentistry. We surveyed students' recognition and appreciation of the lists as well as their evaluation of the user-friendliness of the learning material distribution system. The results showed that approximately half the students were aware of the lists in the first semester and that nearly all the students recognized it by the end of the second semester. The respondents expressed satisfaction with the usefulness of the lists and noted that they helped them review lecture. We considered that the accessibility of the lists might have lead the students to make a habit of reviewing lectures after school. At the beginning of the year, the learning material distribution system was not accessible from outside the campus. However, we resolved the problem by placing an information banner on the top page of the school website. We consider it necessary to improve the contents of the lists further.

Key words : habit-formation, review, essentials list, survey

受付：令和元年8月8日，受理：令和元年11月7日
奥羽大学歯学部生体構造学講座口腔解剖学分野¹
奥羽大学歯学部生体構造学講座口腔組織学分野²
奥羽大学歯学部生体材料学講座歯科理工学分野³
奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座口腔感染症疫学分野⁴
奥羽大学歯学部口腔病態解析制御学講座口腔病理学分野⁵
奥羽大学歯学部口腔機能分子生物学講座口腔生理学分野⁶
奥羽大学歯学部口腔機能分子生物学講座歯科薬理学分野⁷

Division of Oral Anatomy, Department of Morphological
Biology, Ohu University School of Dentistry¹
Division of Oral Histology, Department of Morphological
Biology, Ohu University School of Dentistry²
Division of Dental Material Science, Department of
Biomaterials Science, Ohu University School of Dentistry³
Division of Oral Infection and Immunity, Department of
Oral Medical Science, Ohu University School of Dentistry⁴
Division of Oral Pathology, Department of Oral Medical
Science, Ohu University School of Dentistry⁵
Division of Oral Physiology, Department of Oral Function
and Molecular Biology, Ohu University School of Dentistry⁶
Division of Dental Pharmacology, Department of Oral
Medical Science, Ohu University School of Dentistry⁷

緒 言

大学全入時代となり多様な学生が入学するようになっている。学生の学習時間についても減少しているといわれている¹⁾。専門科目が開始する時期から学習について行けなくなり、学習意欲がなくなり成績不振になると報告されている^{1~3)}。しかし、入学前の成績や入試方式と卒業時の成績を比較したところ、有意差はなかったとする報告もみられる^{3,4)}。成績不振者に対しては、入学後早期での対処が重要であるとしている^{1,3)}。学習習慣や適切な学習方法が身につけていない学生に対して早期の対応が必要であると考えられる^{2,4)}。

本学の歯学部でも専門科目の履修が始まる第2学年において、自主的な学習習慣の獲得をおこない、専門科目の理解不足からの学習意欲低下を未然に防ぐために、専門科目の講義毎に終了後の振り返りに利用できる講義内容の「確認事項」を作成した。この「確認事項」に関して、学生の認知度や学習への効果および有用性について前期終了時と後期終了時にアンケートを行い、その結果の評価をおこなった。

材料および方法

確認事項は講義終了後、放課後に希望する学生に配布するとともに、学内限定でアクセスできる「学習資料提示システム」にアップロードした。また、後期期間中に「確認事項」を学外からダウンロードするためのバナーを大学ホームページに作成した。「確認事項」のファイルはすべてバナー上にアップロードした。確認事項については講義担当者に、その講義の復習となる内容を、文章形式で作成してもらった。

アンケートは前期講義終了後と後期講義終了後の2回おこなった。対象はいずれも同意の得られた奥羽大学歯学部第2学年48名で、アンケート実施前にアンケートの目的と参加方法について説明をおこなった。本研究に関連したアンケート調査については奥羽大学倫理審査委員会の承認を受けておこなった。(承認番号：235号)

アンケートの質問事項は前期・後期ともに「確認事項について」、「学習資料提示システムの利便

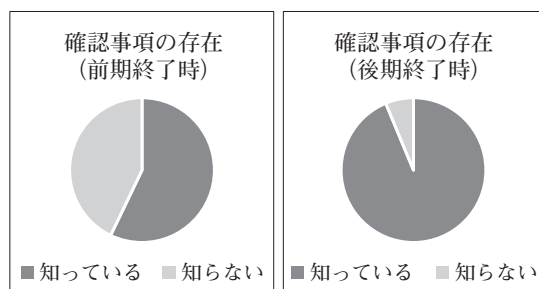


図1 確認事項の存在について

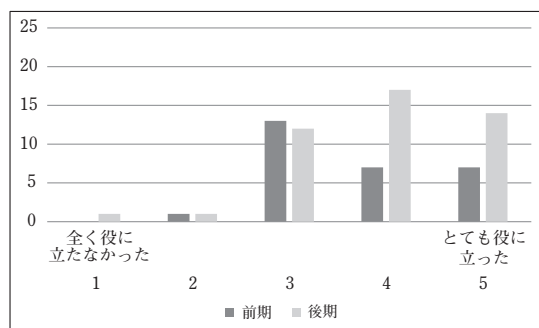


図2 確認事項の有用性

性について」および「1日の勉強時間」の質問をおこなった。後期には確認事項の配信用バナーを作成したので、質問事項に「バナーの利便性について」を追加した。また、前期は「確認事項について」、「学習支援システムについて」、後期はこれらに「バナーについて」を加えた自由記載欄を設けた(表1)。

結 果

確認事項を見たことがある学生は前期終了時では57%であったが、後期終了時には94%が見たことがあると回答した(図1)。

確認事項の内容について、「とても役に立ったを5」、「全く役に立たなかったを1」とした5段階で評価した結果は前期に比べて後期になると「4~5」の高い評価が増加していた(図2)。

確認事項に関する自由記載欄の主なものは前期結果では、「見てみたい」など認知度の低さを反映したものや、「家で使えない」などシステムの問題、「朝に配布してほしい」や「解答が欲しい」など確認事項の利用方法についての回答がみられた(表2)。

表1 アンケート質問項目

- ① 「確認事項」の存在について。
(知っている・知らない)
- ② 「確認事項」の内容について。
(見たことがある・見たことがない)
- ③ 「確認事項」を見た状況について。
(学習資料提示システム・放課後の印刷物・その他)
- ④ 「確認事項」について(②で「見たことがある」と回答した人だけ記入して下さい。)(5段階評価)
- ⑤ 「確認事項」について(自由記載)
- ⑥ 学習資料提示システムについて(5段階評価)
- ⑦ 学習資料提示システムについて(自由記載)
- ⑧ 一日の講義以外での勉強時間(0時間・30分未満・30分以上1時間未満・1時間以上2時間未満・2時間以上)

表2 前期の「確認事項」に対する自由記載欄の主なもの

- ・一度見てみたい。
- ・自宅で見られるようにしたい。
- ・家で使えないので本当に困ります。
- ・講義の重要な所がよく分かり勉強の習慣が付いた
- ・テスト前などに要点確認でとても参考になりました。
- ・その日の朝に確認事項を配布してほしいです。
- ・その日の授業復習なのに次の予習になっている科目がある。
- ・答えが欲しい。
- ・後日でいいので、解答もすべてに出すべき。

後期になると「学習に役立った」など内容を肯定する意見がみられた。しかし、「問題形式が望ましい」など確認事項の作成方法に対するコメントもみられた(表3)。

学習資料提示システムに関する自由記載欄には、「学外から閲覧したい」や「(ファイルを)ダウンロードしなければならないところが不便」といったコメントがみられた(表4,表5)。「バナー」については大変便利の38.3%と便利23.4%を合わせて6割以上の学生が便利と感じており、不満に感じている「不便」,「やや不便」と回答した学生は8.5%であった(図3)。しかし、「文字化けして見られなかった」,「1つ1つクリックして開くのが面倒」といったシステム上の改善すべき問題点が存在していることが分かった(表6)。

考 察

近年、大学生の学習時間が減少しているといわ

表3 後期の「確認事項」に対する自由記載欄の主なもの

- ・要点が押さえられていて授業を理解しやすい。
- ・何をすればいいかわからない時に重要点を認識して、勉強できた。
- ・とにかく学習に役立った。
- ・3年でもこのようなシステムがあると助かります。
- ・要点がまとまっていて復習に最適です。
- ・授業の内容がまとまっていて良かった。
- ・朝に配布してほしい。
- ・問題形式が望ましい。演習量が不足しているため。
- ・科目によって役に立つばらつきがありました。
- ・復習の助けになります。
- ・自分のやったことがわかる。
- ・その日の授業のまとめが詳しく記載されており良い復習になった。
- ・必要最低限の事が分かるという意味では役に立った。

表4 前期の学習資料提示システムに関する自由記載欄の主なもの

- ・家で使いたい。11件
- ・パソコンでしか見られないのが不便

表5 後期の学習資料提示システムに関する自由記載欄の主なもの

- ・資料提示システムを学外から閲覧したい。4件
- ・アクセスが少し面倒だと感じる。
- ・ダウンロードしなければいけないところが不便です。
- ・一つの項目ごとにクリックして開くのが面倒に感じました。
- ・先生の名前があいうえお順に並んでいるなど、探しやすいようにしてほしい。

れている¹⁾。文部科学省の発表している歯学部(歯学科)における令和元年度の留年・休学者の割合のデータでは私立大学の歯学部において、専門科目が増加する第2学年以降で留年率が増加している²⁾。私立歯学部の平均は1年次が9.5%,2年次が18.7%と増加しており、本学でも1年次の6.4%から2年次の11.1%と増加していることが確認できた。しかし、薬科大学におけるデータでは推薦入試を含めた入試方式と6年時の成績を比較したところ、有意差はなかったとする報告もみられる⁴⁾。また、理学療法学課程の学生においても、入学前の学力と卒業時の成績は相関関係を示さなかったとしている³⁾。成績不振者への対応として、入学後早期での対処が重要であるとしている^{1,3)}。学習習慣や学習方法に関しても、高専の学生にお

表6 大学ホームページのバナーについて

- ・大学外でも利用できるため便利だと感じる。
- ・いつでも勉強ができたので、本当に便利で勉強する環境が改善されたと感じます。
- ・実家など学外で開けるのがうれしかった。
- ・家からでも見られるようになったので助かりました。
- ・うまくアクセスできなかった。
- ・一つ一つクリックして開くのが面倒に感じました。
- ・どこでも使えるので今後も利用できるとありがたいです。
- ・スマートフォンでは文字化けして見られませんでした。
- ・可愛いです。

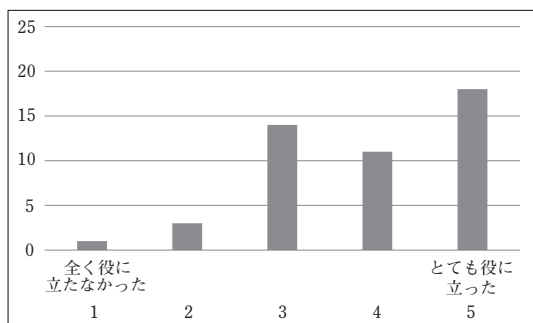


図3 バナーの利便性

いて中学時代からの自学自習の習慣が身につかないものが多いようであるとの報告²⁾や、薬学部⁵⁾の学生において理解する作業を避けているようであるといった報告もみられる⁴⁾。

学習動機の観点から、速水ら⁶⁾の方法をもとに理学療法士学生用の質問紙を作成し調査した結果からも「内的動機付け」すなわち「面白いから勉強する」、「わかるのが楽しいから勉強する」といった学生は、「外的調整」すなわち「他者から強制されるから勉強する」といった学生よりも卒業時に良い成績であったと報告している³⁾。本学においても大学教育を受ける前提となる基礎的な知識などについての補修学習であるリメディアル教育として科目選択ゼミナールの開講を実施している⁷⁾。

本学の歯学部でも第2学年において専門科目の履修が始まるので、自主的な学習習慣の獲得と、専門科目の理解不足からの学習意欲低下を未然に防ぐために、専門科目の講義毎に終了後に振り返りの指標となるように講義内容の「確認事項」を作成した。この「確認事項」に関して、認知度や有

用性および学習への効果について前期終了時と後期終了時にアンケートを行い、その比較検討を行った。その結果、1回目のアンケート時には大学でしかダウンロードできない状態を不便に感じるコメントがみられた。また、1回目のアンケート時は「確認事項」の趣旨が理解されておらず、「解答を出すべき」といったコメントがみられたが、2回目においては「解答を出すべき」というコメントはなく、「復習の助けになった」など講義で学習した内容を各自で確認するための利用方法に取り込まれていったものと考えられる。実際に内容を見たことがある学生が増えた2回目アンケートでは「重要点を認識して勉強できた」、「復習に最適」などのコメントが多くみられた。講義内容を復習するための指針となりうるものが示唆された。また、確認事項の内容に関して科目間での認識の違いが生じているようで、「次の予習になっている科目がある」、「役に立つばらつきがあった」などのコメントもみられた。復習に役立つように、問題形式などの基準も統一して、より役立つ「確認事項」の作成を行える環境を整える必要があると考えられた。確認事項は内容の統一など、改善が必要な点もあるが、講義毎の振り返り用としては学生からの評価が高く、日々の学習の手助けになっていると考えられた。

学習習慣が身につけていない学生に対して、学習進捗報告書や学習計画表の作成をおこなわせることで、計画的学習法を獲得することに役立つことが期待できるとされる^{8,9)}。また、歯学部における臨床基礎実習に、ループバックと振り返りを取り入れた試みでは、自己学習やプロフェッショナルリズムの意識づけに有用である可能性が示唆されている¹⁰⁾。今後は、確認事項に「今日学習したこと」、「明日の予定」、「学習時間」、「学習に対する自己評価」などの記入欄を加え、学習進捗報告書の内容を加味することにより、より一層計画的学習法の獲得に役立つようになると思われる。

結 論

講義毎に復習用の教材として「確認事項」を作成したことで、復習の指針となったと考える。これにより、日常的な学習習慣の獲得にも役立つ可

能性も期待できると考える。学習資料提示システムが学外からアクセスできない点も、大学ホームページにバナーを作成したことで解決できたが、「確認事項」の内容や配布方法などに改善の余地があることが分かった。

本研究に関して、開示すべき利益相反は無い。

謝 辞

本研究は平成30年度奥羽大学学長裁量経費教育研究プロジェクトの助成を受けたものです。

平成30年度の第2学年に対する「確認事項」の作成にご協力いただいた講義担当の先生方に深甚なる謝意を表します。

文 献

- 1) 大河内佳浩, 山中明生: プレースメントテストや高校の履修状況などのデータを用いた初年次成績不振者の早期発見. 日本教育工学会論文誌 **40**; 45-55 2016.
- 2) 黒川孝春, 宮川正平: 成績不振者の調査報告とその考察. 木更津工業高等専門学校紀要 **28**; 7-11 1995
- 3) 成田亜希: 高等教育機関における成績不振者の発見と対応の検討. 理学療法科学 **33**; 33-37 2018.
- 4) 井上能博, 池野聡一, 宇都宮郁: 本学における成績不振の理由に関するアンケート調査. 昭和薬学紀要 **51**; 1-7 2017.
- 5) 文部科学省「令和元年度 歯学部(歯学科)における留年・休学者の割合」(最終閲覧日: 2019年11月4日)
http://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/detail/_icsFiles/fieldfile/2019/10/08/1325992_005.pdf
- 6) 速水敏彦, 田畑 治, 吉田俊和: 総合人間科の実践による動機づけの変化. 名古屋大学紀要 **43**; 23-35 1996.
- 7) 五十嵐 勝: 歯科医学教育プログラム(学資家庭教育) 3. 歯科医学教育カリキュラムの現状と改革. 日本歯科医学教育学会雑誌別冊 歯科医学教育白書2017年版; 29-33 2019.
- 8) 黒後裕彦, 高橋一揮: 成績不振学生に対する学習習慣改善の取り組みと学習時間に関するアンケート調査について. 理学療法科学 **39** Supplement; Ga0188 2012.
- 9) 皆川正寛, 佐藤拓史, 高橋 章: 高専生の学習習慣の定着を目指した「学習進捗報告書」の導入と評価. 長岡工業高等専門学校研究紀要 **49**; 19-24 2013.
- 10) 高崎千尋, 佐藤嘉晃, 岩寺信喜, 種市梨沙, 八若保孝: 小児歯科学臨床基礎実習に試行導入したルーブリックと振り返りに対する有効性の検討. 小児歯科学雑誌 **55**; 364-74 2017

著者への連絡先: 宇佐美晶信, (〒963-8611) 郡山市富田町字三角堂31-1 奥羽大学歯学部生体構造学講座口腔解剖学分野

Reprint request: Akinobu USAMI, Division of Oral Anatomy, Department of Morphological Biology, Ohu University School of Dentistry

31-1 Misumido, Tomita, Koriyama, 963-8611, Japan